

新刊  紹介

**遺伝子医学 MOOK 別冊
薬物の消化管吸収
予測研究の最前線**

杉山雄一 監修・山下伸二, 森下真莉子 編

メディカルドウ/B5・140頁・3,150円

経口医薬品において、ヒトの消化管から良好に吸収されることは、最も基本的かつ重要な前提要素である。しかしながら、医薬品の開発段階でヒトにおける消化管吸収を予測することは、依然として困難な課題であり、それゆえ、吸収予測の方法論を網羅的に論述した書籍を見かけることはまれであった。消化管吸収予測の最前線に立つ研究者によってま

とめられた本書は、極めて貴重な1冊であるといえる。

本書1冊を備えていれば、消化管吸収過程における各メカニズムに関する概論的な知識から、医薬品開発においてどのように消化管吸収を評価・予測しているかなどの実践的な手法まで、必要な情報がほぼすべて得られる内容になっている。その中でも特に、近年徐々にその役割が明らかにされつつある消化管に発現するトランスポーターや、代謝酵素の影響についても言及されており、最前線の研究手法を学びたい研究者にとって大いに参考となる。

さらに、FDA から発信されたガイダンス

で推奨されている消化管吸収の評価法の検証結果についても著されており、その妥当性や課題にまで論述されている点は、実際に医薬品の開発に携わり、本ガイダンスの影響を受ける製薬企業の従事者には必読であろう。

あらゆる面で消化管吸収予測研究の“今”を把握できる本書は、これから研究を始める研究者には無論のこと、大学や企業研究者に広くお薦めしたい良著である。

池田幸弘 Yukihiro IKEDA

※本書は、日本薬学会「薬学情報コーナー」で閲覧できます。